〔第三種郵便物認可〕　昭和九年七月三十一日　〔火曜日〕　磐城新聞　第四千八十九號　(一)

夜雨をきく

高瀬勝男

窓

本氣に關心をもたない風に
墨の目を千程、數へてこ超然として居る
の間親父の意見をきいた　たとへば、街の淫賣婦が
天氣がよければこんな事　どんな風な貞操をもつて居
もなからうが、毎日不愉快　様と愛と肉慾とは別な方角
だ　にあると信じて、決してこ
卓子に花を置き、煙草を　の信じを疑はない
けぶらして電燈の下で繪を　淫賣婦にも愛と、貞操は
書く、本を讀む　ありますね、と思ひます
更くなると、鼠が出たら　女は愛してやらなければ
しい、本を噛む音は愈に夜　と心を落付けて、先づ尤も
雨をそゝる様だ　尊敬してる、たれ彼れを考
夏盛りのこの頃雨ばかし　へて、靜かに己をならふ時
多く、秋冷に似て單衣で寒　本當に夜雨は祈に命ぶるよ
くまか重衣もおかしから　ろこびがある
うがいやな氣だ　理解は信仰や道德では一寸
勝男のノート一頁を寫し　律しきれません
たい　夜雨をきくのに、病んだ
男は女が好きだ。子供が　床の悲鬱より、晴やいた日
ちょうど林檎が好きな様に　頭の閃いた刻、しみじみ
好きなうちはいいが過食す　と心を落付けて、先づ尤も
ると健康を害すると注意し　尊敬してる、たれ彼れを考
たい　へて、靜かに己をならふ時
それは宿醉ひに似て重た　本當に夜雨は祈に命ぶるよ
い氣持を背負される勝男も　ろこびがある
女が好きだ
過食、とんでもない、好
きなだけで腹半分も滿足に
入れたことのない憧病癖だ
併し、ためつすかめつ、
遠くからいろ〳〵の女の人
を見てはゐる
意地が惡くなるといけな
い、お母さんは兄姉をたし
なめて小さい兒をかばつた
同じ、勝男は下賤になつて
てはいけないと己を譴責に
立派にして、女の事は一構
はず水々しい初夏の香りが
頬に飛び込んでくる、前
々から待ち上ぐんでゐた今
日の行樂日だけに車内の中
央に陣取り我物顔な友等は
早くも四時川の鮎釣り話ー
に花を咲かせてゐるのか時
折車の騒音に折り込まれて
カン高い話聲が聞えて來る
鰯でトンネルを出ると眼前
に展開された嫩々とした田
面に水が一杯張られて、
青々とした苗が風にそよぎ
合ひ、遠く山裾に點在する
農家から立ち昇る煙が、
靜かな日だ
一直線の軌上に快いひゞ
きを殘して、列車は走りを
續けてゐる車窓から

小名濱波止場にて

岡浩

ろん〳〵と海鳴りを聞く
波止の燈明臺よ
お前の目はなにをそんな
に悲しんで
またゝきもせず佗しい凝
視を續けるのだ
山風が吹くと
石油タンクの陰で
バットの煙に散々の夢を
ふかす女よ
君はあの影像を淫賣婦と
呼ぶのか？
おーい、かもめよ
まんまるく、まんまるく
何故にそんなに僕らの上
を飛んでゐるのだ

健然行

上

四時川、九面に遊ぶ

玲光生

紫がすんだ湖畔井戸のスカイラインを鮮形
雲を思ひ切つた高に天心
延び樹がつて、山麓からは
麥を燒く煙りであらう白煙
のやうに纖々として立昇り
ながら山麓に溶け入つて居
る、靜かな日だ
一直線の軌上に快いひゞ
きを殘して、列車は走りを
續けてゐる車窓から

折々のうた

島田忠夫

○木兎莊を憶ふ

○君が園にひなげしあまた咲きのきと今日の朝に思ふしづけし

○ま日照れる陰かがやきて咲きみてり松葉牡丹の花ひなげしの花

○くれなゐに黄に花咲ける園なかに梟胴ひぬ大き梟を

まもなく、お園が、しよしぎだつたんぼりと、疲れて戻つて來るのだつた
三晩間を置いて、また、蓉家から使ひが來て、お園は、また出かけて行つた

『——女中といふものは、そんなに收入のあるものかしら……』
それに蓉家へ行きはじめてから鐵之助に對するお園の態度がなんとなくよそよそしく、常に落ちつきなかつた
——蓉家に、何事か曰くありげだ。さう氣がついたのは水々しい初夏の香りが頬に飛び込んでくる、前々から待ち上ぐんでゐた今日の行樂日だけに車内の中央に陣取り我物顔な友等は早くも四時川の鮎釣り話ー
に花を咲かせてゐるのか時折車の騒音に折り込まれてカン高い話聲が聞えて來る鰯でトンネルを出ると眼前に展開された嫩々とした田面に水が一杯張られて、青々とした苗が風にそよぎ合ひ、遠く山裾に點在する農家から立ち昇る煙が、靜かな日だ
一直線の軌上に快いひゞきを殘して、列車は走りを續けてゐる車窓から

浪人長屋

(152)

日岐武志作

月章道子畫

講談

障子の影

茅茸の家並みを兩窓に過ぎて炭鑛街を自動車に揺られながら過ぎ行く頃は晨間から逃れた眞夏の陽光が燦々と降りそゝぐ、町外れで車をすてる
四時川に沿ふた一間道路を鮎の話しで持ちきつてゐた一行は間も無く釣場に着くかと見どゞけてまもなく
お秋がさういふので、鐵之助も出掛けてみる氣になつた
蓉家はさ程遠いところではなかつた
お秋は勝手を知つてゐるらしく蓉家の裏手へ廻つて黒塀の切戸を押し開いた
お秋の後から鐵之助も中に入ると、そこは裏庭で泉水や築山などが、狹い庭にふやうなことは一度もなかつた
明るく灯された幾部屋もの裏座敷と離れとが眼に映つたが時刻が遲いので大方の客は歸つたらしく割合に靜だつた
それでも料理屋らしく雜音があちらこちらにきこえた
『ホラあれをごらんなさいな』
そういつて、お秋が指さした離れの一室——明るい障子に男女二つの影が寄り添うて、むつましげに語り合うてゐるらしい
男は町人體らしいが女はたしかにお園の影である
『どうです鐵之助さん、あれがあなたの奥さんでせういやに、お安くないところを見せつけるぢやありませんか』
お秋は小聲でいつて、ホホと笑つた
客相手の商賣だから、この位なことはあるだらうーと、鐵之助はおもつたがさすがに、いい氣持ではない
『妬けますことね。あんなにしてゐるけれど、御安心なさいよ。商賣なんだからあゝでもしなきや男からは金が取れないのですよ、これもみんな鐵之助さんのために、してゐるのだと思ふと、有難くなつちやうでせう』
男の影はどこか見覺えがあるやうな氣がしたが、はつきり思ひ出されぬ
『いつまでも見ているのはやつぱしあんたの眼の毒になるからさアかへりませう』
と、お秋がいつた時
ふツと、離れの灯りが吹き消されて、その部屋だけが眞暗になつた
『おやツ、これは、いよいよお安くないことれ』
と、鐵之助よりも、むしろお秋の方がおどろいたらしい

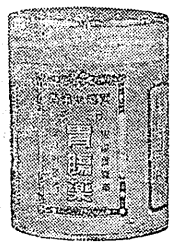
ホシチオール

全國藥業家諸賢に警告す

六月十四日判決

「被告人大阪製藥所」

「同商品ノ製造販賣ヲ爲スベカラズ」



六月十四日判決

「被告人大阪製藥所」

八昭和五年八月二十一日及同年十一月二十八日出願ヲ以テサレタル、ホシ胃腸藥、アンチツベルケン、ホシチオール其他別紙目錄記載ノ各商標權移轉登錄手續ノ抹消ヲ爲スベシ

「同商品ノ製造販賣ヲ爲スベカラズ」

ト裁判せられ、神のものは神に、「ホシ」のものは「ホシ」にと決定致しました。本社は法律の與ふる權利と本社の負ふ任務に基き『ニセモノ』の一掃に邁進致します。

全國の藥業家諸士が職業的良心に愬へ、此の正義の戰に眞心からの共鳴と協力あらんことを切望すると共に、『ニセモノ』販賣者に對し茲に御警告申上げる次第であります。

昭和九年七月

東京・五反田　星製藥株式會社

ホシチエンストアー平支部

ホシ藥舖

平町三丁目三〇番

電話四二九番

靈峰羊羹

磐城名物

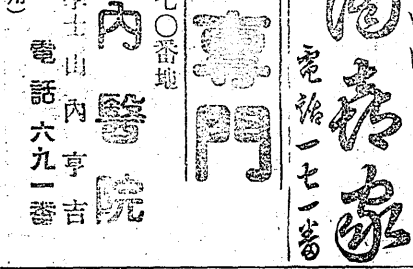
小川郷驛前

平屋賣店

美味で評判の

イワキサロン

平町電三五二



夜間診療

胃腸性病

內科　胃腸病科

花柳病科　性病科

皮膚科

專門

松村胃腸性病科醫院

（平町南町電一〇七番）

小兒科　內科　花柳病科

平町ねずみ坂

渡邊醫院

電話一六一番

耳鼻咽喉科專門

平町田町七〇番地

山內醫院

醫學士山內亨吉

電話六九一番

入院隨時

病室完備

（看護婦見習二名入用）

生花教授

池ノ坊

生花を總切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい。

平町四丁目和泉屋旅館

須藤まつの

汐の前　海老天丼　天ぷら丼　親子丼

平町田町

酒森家

電話一七一番

產婦人科　外科　藥局

醫學博士　內木宗八

藥劑師　玄番彌一

平町新川町十九番地

入院隨意

病室完備

木村病院

電話一六四番

磐城共濟病院

（福島縣平町）

（電話六四一番）

內科（兒科）　院長　醫學博士　石山謙郎　（電話六四一番）

小兒科　部長　岩手醫學士　半賀一忠

產婦人科　副院長　醫學博士　五十嵐雄二　（電話三七〇番）

外科　部長　醫學士　坂本眞一郎

耳鼻咽喉科　部長　醫學士　前澤正　（電話二七二番）

皮膚泌尿器病科　部長　醫學士

花柳病科

X光線科　醫學博士　石山謙彪

物療科　技手

衛生試驗所　獸醫　高俊利雄

藥局　藥局長　藥劑師　吉本孝平

事務長　鈴木寶雄

◎每日午前八時ヨリ

◎夜間診療開始）每夜午後十時迄）

◎病室完備　入院隨意

夕刊

七月三十日發行

（日曜祭日休刊）

定價一ケ月金五拾錢（郵稅金六錢）

廣告料一行金六拾錢（十字詰）

磐城新聞社（ライオン印）

電話（一）番

磐城新聞社（ライオン印）

電話（一）番

磐城新聞社（ライオン印）

電話（一）番

日曜祭日休刊

7月31日　△大正天皇朝見式約束したやうに、お秋がや

（大正元）△改正所得稅法公布（同九）△支

7月一日より實施（同八）

那暴民三百、秦皇島を襲

（昭和七）△負債整理組

合法施行規則公布、八月

一日より實施（同八）

社會の今日

○

冷奴隣りの蚊やり流れ來る

不二居

かたらひつゝ瀧へと歩むにして、君と我が見し撫子の花

塚多枝子

月曜論壇

平町と資源開拓

都市計劃が着々進められつゝある平町は、勞頭先づ幹線國道の舖裝によつて、所謂近代都市の形態を備ふべく第一歩を踏み出し今後交通、衛生、保安、經濟等勝戰で强豪福師に食ひ下りの各方面に渉つて夫々所期地方球界の至寶として適れの施設計劃が行はるる筈でな技倆を確認された平商業あるが、而も堅實なる新興學校の野球選手は宮城縣工躍進の都市を建設するには仙台一中、梅檀中學、育英勿論外形の美は卽ち之を必中學、山形中學、新庄中學要とするも、其れ以上經濟の强豪に伍し來月一日から的に彈力ある恒久的の基礎四回郡下敎員野球大會は昨仙台市設の木橋球場で催されを築き上げねばならない、二十九日午前九時から平第一、第三、平商の三校庭に豈明なる町當局は夙にここ指し勇躍出場すべく大會健於て出場チーム十二、接戰に稽へ町是調査の一項として調の疲勞未だ拔け切らないの發泉、上遠野兩チーム決て曩に所謂資源調査會なる二十七日から早くも猛練習勝に殘り午後五時半から泉機關を設け、査察檢討些かを開始し、森キャプラン以先攻で爭覇戰に入つたが六勗めたものの如くであつた下全選手達ははち切れさうに回で夕暗のためドロンゲーが、事業の性質が既に前人な元氣で練習を續け赤坂投ム泉九對一で堂々優勝した未踏の處女地から有力なる手の如き福島師範との決勝戰に慘敗した責任を感じて丈けに委員の智能を總動員かその練習振りの猛烈さはして尙ほ且つ曰く養魚曰く眞に涙ぐましい程であるが木工品産出等、等、三十餘矢野校長、宮澤部長も鄕土萬の大豫算を消化する平町平の名を恥しめない戰績をの財源としては眞に零砕九殘して來たいとこれまた第平の一毛にも値せぬ底のも一線に立つて選手達を督勵のである。今や我が目にして早くも縣代表の榮平町會は時に堅白異同の辯舉を擔つた同チームに對しを縱橫するの士無きに非るては均しく驚異、絶讚の聲も此種長期な問題に就ては去げて居り靑沼平町長は敢て多くの關心を拂ふ事無同校の仙臺行は鄕土平の名く一面健忘なる町民の記憶發で財源難を默視するに忍より殆ど撥り去られたかのびないとて二十八日率先一觀あるは町將來の經濟策發達を祈念する上に於て良とに遺憾に禁へざるものがある、斯くして平町に於ける新財源の發見は恰も曉鍾なる十壤に農禾を求むると一般蓋し不可能に非ずとするも頗る至難たるを失はぬのであるが、開說、大資本を擁する某方面に於ては吾人の平町に人絹製造の大工場設置を計劃し敗地の視察所要水質の檢査等既に基本的調査に入つたとの事である之の風評にして幸ひ事實とせば差當り資源として認むべき何物も無き平町にとつて正に天賚の福音と謂ふく町として此際漫然手を拱き他動的に渠成つて水通づるの日を待つべきで無いと思ふ、須く事情の許す最大限の犧牲を拂ひ倘迄之を實現に導かねばなるまい、町議諸公の淸鑑を請ふ

我等勝たせ度い——と
大振り込みの平つ子
愈々明朝東北豫選へ
商を

球部遞友倶樂部では今三十日同校に金五圓を寄附した

遞友から寄附　平局內野

泉棲覇を制す

昨日の敎員野球戰績

平第一三——六勿　來
准決勝
（平商校庭）
高　坂〇——一上遠野
（第一校庭）
泉　5A——4勿　來
決　勝（第一校庭）
上　一〇〇〇〇〇一
遠　二三四五六——
泉　二〇三二〇二九
野　坂坂島田三田中七木
上　赤江七吉佐櫛田佐野
遊一三投中二捕左右
20516023
打安犠三盜四失
29704740
野孝正塚田邊松新田
遠木木　河　木
上鈴鈴大山下若鈴横
投三遊捕中二左右一

夏休みを利用して
求職兒の實地練習
前後一週間に亘る
四十六名の臨時小店員

既報＝平職業紹介所では今夏休業中を利用し來春卒業致推薦委員を擧げ交涉中だ兒童から希望を募り實地につたが固辭して受けぬので就き練習せしむべく準備中同村では到底同氏の就任は であつたが希望兒童望めぬと去る二十七日役場好敎二六　湯本一七　內鄕二　平第一一　崎佐之吉、副委員長白井菊計四十六名あり、之を平町內に協議會を開き委員長柴造兩氏を擧げ他方面から詮內三十軒の各商店に住込ま衡する事になつた

傅貧馬九頭

四月以降の撲殺數

石城畜馬畜產組合に於ける今年四月以降現在迄の傅貧馬撲殺數は四、五、六月各一頭、七月六頭

計九頭で昨年同期の五頭に比し約二倍するの狀態に組合でも飼養者と提携これが發生防止に努めて居る、尙川前村大字下楯嘗字殿林根本勝弘氏飼育雌種（十七才）も昨二十九日同病と決定近く撲殺する筈

丑の日曜午ら
例年の約半分位
引つ立たぬ海水浴氣分

連日の梅雨模樣がカラリと名で自動車の爲に盛食され晴れて久し振りの太陽がヂたのか昨年同日の千百八十リ〳〵照り出したきのふの四名に比し三百七十二名の日曜丑の日！四倉、小名濱滅であり係員も『た話になその他の各濱へは海のファンりませんよ』と不順な天候が朝つばらから續々と押しを恨んでゐるが四つ倉海岸かけてたちまち砂原は紅、の人出は例年の一萬以上に青、黃色とり〴〵の水着で比し之亦話にならぬ約三千埋められ、各賣店脫衣場は小名濱も入山炭坑の休日繰今年始めての賑ひを見せた下げに祟られてか例年の半平驛から四倉への乘客は分とある臨時列車をも加へ八百十二

食つたり廿六頭
肉量七千八百斤
昨丑の日に味覺の犧牲

昨二十九日の丑の日に際しては滿洲自衛移民の第一回百二十二圓二十二錢更に一人當りは五十六圓二十七錢である

産卵六十萬

平町役場調査による昨年七月以降去月迄一ケ年の鷄飼養況は

飼育戶數　十羽未滿八五　十羽以上

計七千七百七十羽である、更に產卵數は六十萬九千個（一羽平均七十六個強）で此の金額一萬四千七圓、一個平均額二錢三厘である

五十羽未滿三六　五十羽以上二〇

計百四十一戶でこれが種類は

雌四、〇六〇羽　雄九〇羽

羽　雛三、六二〇羽

診療中本郡下の日割左の如し

四日—鹿島　五日—箕輪
六日—永戶　七日—川前
九日—貝泊　十日—荷路夫
十一日—石佐　十八日—內鄕　二十日—湯本

（農產）八三、五四八圓
（工產）一、三六八、六〇〇圓、（畜產）九六、四六〇圓、（水產）七、七五〇圓

合計百五十五萬六千三百六十八圓、一戶當り生產は三百二十二圓二十二錢更に一人當りは五十六圓二十七錢である

產卵六十萬

平町役場調査による昨年七月以降去月迄一ケ年の鷄飼養況は

飼育戶數　十羽未滿八五　十羽以上

愈々明後二日より
滿洲へ電話開通
平から一通話七圓

腰報＝平局より滿洲國（新者以外は通話一得ないが平京、奉天、大連、ハルピン）局からは一般加入者も通話への無線電話は愈々明後八し得る月二日より正式開通することに決定したが通話料其他次の如し

普通—七圓、至急—二倍
定時—五倍　取消料、定時一圓、他は五十錢

通話時間は加入者は午前八時より午後十一時、非加入者は午前八時より午後八時より午後八時迄で、奈良、水戶等の一流都市さへも長距離電話加入上小川村では既報の如く後

犬コマ

縣社千鹼倉神社へのコマ犬奉獻資金は既報の通り一昨二十八日から諸橋久太郎氏等により開始したく町として此際漫然手を拱き他動的に渠成つて水通づるの日を待つべきで無いと思ふ、須く事情の許す最大限の犧牲を拂ひ倘迄之を實現に導かねばなるまい、町議諸公の淸鑑を請ふ

各二千圓—さゞれ會、赤

奉獻資金六千圓
瞬く間に纏まる
敬神崇祖の赤誠反映

縣社千鹼倉神社へのコマ犬奉獻資金は既報の通り一昨二十八日から諸橋久太郎氏等により開始したく町として此際漫然手を拱き他動的に渠成つて水通づるの日を待つべきで無いと思ふ、須く事情の許す最大限の犧牲を拂ひ倘迄之を實現に導かねばなるまい、町議諸公の淸鑑を請ふ

堀信平　三百圓—山崎與
三郎　二百圓—山部正男
各百圓—靑沼鉢太郎、梶田榮太郎、小野園次郎、坂本隆藏、明智榮司、鈴木箭山、丹野榮三郎、金子宗平、阿部政右衛門、大須賀善吉、猪狩庄平、岡田千藏、草野七五三之助、色川勝三郎、吉田由三郎

大敷網漁業爭議
豐間、久の濱の代表出縣

沿岸四十里に亘る縣下漁業願した爲之に因て著しき減の王座を占めてゐる大敷網收を憂むべき豐間、久の濱は小名濱、豐間、久の濱の兩大敷大問題とし、豐間村では鈴三ケ所に於て行はれてゐる木村長、遠藤漁業組合長外が稅金關係が違ふ丈けで大二名、久の濱では新妻町長體操業上の機構を同じうす外七名の委員を擧げ今三十る四倉の角網が前記三者同日出縣、許可の阻止運動を開始した、卽ち大敷網は各漁場間五千間の間隔を置き定置する事になつて居る處へ、四倉では如何にしても五千間の間隔を置き難い豐間、久の濱間九千六百間の中間へ兩漁場の一方を若干異動すれば差支無いと云ふ見解から新に出願したのであるが一朝之が許可の曉には久の濱では春季北漸する魚族の遡游を先占せらるる一方豐間では魚族南漸の秋季に於て同樣の影響を受くるからであると

●…巡回診療日割　來月巡回

世相萬華鏡

●…老鼠賊捕はる　住所不定
無職新潟縣佐渡郡相川町二丁目三五窃盜、住居侵入等前科五犯青木竹四郎(三二)は本月中石住村の某方物置から白米四升、勿來町窪田櫛岡常藏(四〇)は去二十五日から田亀吉方から同樣三斗外に二十七日迄上遠野村根岸木賃宿經田イシ方に宿泊中方物置から同樣二斗、勿來町關田遠藤音次郎方から一斗等白米專門の窃盜を働きに無錢で五泊(六圓)の詐欺

●…植田署から今三十日送檢された
家出の伴捜索願　岩手縣東磐井郡興田村字沖田八重治長男藤森吉郎(二九)は八年前家出音信不通となつてゐたが去る十五日父八重治が死亡したので幾兄に當る內鄕村高坂坑夫星茂方に居は市花畑町一六二生れ佐藤健太郎(三元)は今三十日郡山に向ふべく平町を通行中コカイン中毒を起し町役場から平署員に檢擧された

●…コカ中役場へ縋る　岡山縣苫田郡上齋原村大字鴻草字町原龜三郎方留守宅から腕時計一個(價格三十圓)外衣類三點を窃取、同村徘徊中を

●…巡回診療日割　來月巡回

丗相萬華鏡

●…老鼠賊捕はる　住所不定
無職新潟縣佐渡郡相川町二丁目三五窃盜、住居侵入等前科五犯青木竹四郎(三二)は本月中石住村の某方物置から白米四升、勿來町窪田櫛岡常藏(四〇)は去二十五日から田亀吉方から同樣三斗外に二十七日迄上遠野村根岸木賃宿經田イシ方に宿泊中方物置から同樣二斗、勿來町關田遠藤音次郎方から一斗等白米專門の窃盜を働きに無錢で五泊(六圓)の詐欺

●…植田署から今三十日送檢された
家出の伴捜索願　岩手縣東磐井郡興田村字沖田八重治長男藤森吉郎(二九)は八年前家出音信不通となつてゐたが去る十五日父八重治が死亡したので幾兄に當る內鄕村高坂坑夫星茂方に居は市花畑町一六二生れ佐藤健太郎(三元)は今三十日郡山に向ふべく平町を通行中コカイン中毒を起し町役場から平署員に檢擧された

●…コカ中役場へ縋る　岡山縣苫田郡上齋原村大字鴻草字町原龜三郎方留守宅から腕時計一個(價格三十圓)外衣類三點を窃取、同村徘徊中を

犬コマ

縣社千鹼倉神社へのコマ犬奉獻資金は既報の通り一昨二十八日から諸橋久太郎氏等により開始したく町として此際漫然手を拱き他動的に渠成つて水通づるの日を待つべきで無いと思ふ、須く事情の許す最大限の犧牲を拂ひ倘迄之を實現に導かねばなるまい、町議諸公の淸鑑を請ふ

各二千圓—さゞれ會、赤

奉獻資金六千圓
瞬く間に纏まる
敬神崇祖の赤誠反映

堀信平　三百圓—山崎與
三郎　二百圓—山部正男
各百圓—靑沼鉢太郎、梶田榮太郎、小野園次郎、坂本隆藏、明智榮司、鈴木箭山、丹野榮三郎、金子宗平、阿部政右衛門、大須賀善吉、猪狩庄平、岡田千藏、草野七五三之助、色川勝三郎、吉田由三郎

四倉からの出願で
大敷網漁業爭議
豐間、久の濱の代表出縣

沿岸四十里に亘る縣下漁業願した爲之に因て著しき減の王座を占めてゐる大敷網收を憂むべき豐間、久の濱は小名濱、豐間、久の濱の兩大敷大問題とし、豐間村では鈴三ケ所に於て行はれてゐる木村長、遠藤漁業組合長外二名、久の濱では新妻町長外七名の委員を擧げ今三十日出縣、許可の阻止運動を開始した、卽ち大敷網は各漁場間五千間の間隔を置き定置する事になつて居る處へ、四倉では如何にしても五千間の間隔を置き難い豐間、久の濱間九千六百間の中間へ兩漁場の一方を若干異動すれば差支無いと云ふ見解から新に出願したのであるが一朝之が許可の曉には久の濱では春季北漸する魚族の遡游を先占せらるる一方豐間では魚族南漸の秋季に於て同樣の影響を受くるからであると

●…巡回診療日割　來月巡回

無軌道戀愛の一擊を喰はす
嚇となつた麻袋の職工

內鄕村大字御厩字新町仙台市生れ山田麻袋工場職工武田安右工門(三)は去る二十四日午後六時頃痴情から摺子木で妻ヒヨヨ(二六)の頭部を殴打、右手骨折の全治一ケ月の傷を負はせた上剃刀を以て同人の頭髮を根元から切り取つた事發覺、今三

傅貧馬九頭

四月以降の撲殺數

石城畜馬畜產組合に於ける今年四月以降現在迄の傅貧馬撲殺數は四、五、六月各一頭、七月六頭

計九頭で昨年同期の五頭に比し約二倍するの狀態に組合でも飼養者と提携これが發生防止に努めて居る、尙川前村大字下楯嘗字殿林根本勝弘氏飼育雌種（十七才）も昨二十九日同病と決定近く撲殺する筈

丑の日曜午ら
例年の約半分位
引つ立たぬ海水浴氣分

連日の梅雨模樣がカラリと名で自動車の爲に盛食され晴れて久し振りの太陽がヂたのか昨年同日の千百八十リ〳〵照り出したきのふの四名に比し三百七十二名の日曜丑の日！四倉、小名濱滅であり係員も『た話になその他の各濱へは海のファンりませんよ』と不順な天候が朝つばらから續々と押しを恨んでゐるが四つ倉海岸かけてたちまち砂原は紅、の人出は例年の一萬以上に青、黃色とり〴〵の水着で比し之亦話にならぬ約三千埋められ、各賣店脫衣場は小名濱も入山炭坑の休日繰今年始めての賑ひを見せた下げに祟られてか例年の半平驛から四倉への乘客は分とある臨時列車をも加へ八百十二

食つたり廿六頭
肉量七千八百斤
昨丑の日に味覺の犧牲

昨二十九日の丑の日に際しては滿洲自衛移民の第一回百二十二圓二十二錢更に一人當りは五十六圓二十七錢である

產卵六十萬

平町役場調査による昨年七月以降去月迄一ケ年の鷄飼養況は

飼育戶數　十羽未滿八五　十羽以上

愈々明後二日より
滿洲へ電話開通
平から一通話七圓

腰報＝平局より滿洲國（新者以外は通話一得ないが平京、奉天、大連、ハルピン）局からは一般加入者も通話への無線電話は愈々明後八し得る月二日より正式開通することに決定したが通話料其他次の如し

普通—七圓、至急—二倍
定時—五倍　取消料、定時一圓、他は五十錢

通話時間は加入者は午前八時より午後十一時、非加入者は午前八時より午後八時迄で、奈良、水戶等の一流都市さへも長距離電話加入上小川村では既報の如く後

犬コマ

縣社千鹼倉神社へのコマ犬奉獻資金は既報の通り一昨二十八日から諸橋久太郎氏等により開始したく町として此際漫然手を拱き他動的に渠成つて水通づるの日を待つべきで無いと思ふ、須く事情の許す最大限の犧牲を拂ひ倘迄之を實現に導かねばなるまい、町議諸公の淸鑑を請ふ

各二千圓—さゞれ會、赤

奉獻資金六千圓
瞬く間に纏まる
敬神崇祖の赤誠反映

堀信平　三百圓—山崎與
三郎　二百圓—山部正男
各百圓—靑沼鉢太郎、梶田榮太郎、小野園次郎、坂本隆藏、明智榮司、鈴木箭山、丹野榮三郎、金子宗平、阿部政右衛門、大須賀善吉、猪狩庄平、岡田千藏、草野七五三之助、色川勝三郎、吉田由三郎

四倉からの出願で
大敷網漁業爭議
豐間、久の濱の代表出縣

沿岸四十里に亘る縣下漁業願した爲之に因て著しき減の王座を占めてゐる大敷網收を憂むべき豐間、久の濱は小名濱、豐間、久の濱の兩大敷大問題とし、豐間村では鈴三ケ所に於て行はれてゐる木村長、遠藤漁業組合長外二名、久の濱では新妻町長外七名の委員を擧げ今三十日出縣、許可の阻止運動を開始した、卽ち大敷網は各漁場間五千間の間隔を置き定置する事になつて居る處へ、四倉では如何にしても五千間の間隔を置き難い豐間、久の濱間九千六百間の中間へ兩漁場の一方を若干異動すれば差支無いと云ふ見解から新に出願したのであるが一朝之が許可の曉には久の濱では春季北漸する魚族の遡游を先占せらるる一方豐間では魚族南漸の秋季に於て同樣の影響を受くるからであると

●…巡回診療日割　來月巡回

無軌道戀愛の一擊を喰はす
嚇となつた麻袋の職工

內鄕村大字御厩字新町仙台市生れ山田麻袋工場職工武田安右工門(三)は去る二十四日午後六時頃痴情から摺子木で妻ヒヨヨ(二六)の頭部を殴打、右手骨折の全治一ケ月の傷を負はせた上剃刀を以て同人の頭髮を根元から切り取つた事發覺、今三

實父の失踪
宣告を申請
捨てられた倅から

双葉郡長塚村大字鴻草字町四三農守家一雄は平町大竇辯護士を代理人として平區裁判所に實父甚司郎(四九)の失踪宣告方を申立てた

甚司郎は大正三年頃二十時より各道路海岸一帶の美九才の折妻と當時七才の化作業を行つた

一雄を頭に三人の子供を置き去りにし出奔、同十年九月前後勿來町東海昆布製造業本田辰吉氏は去鏃より所在不明となつた月九日から大洗市で開催のが十年頃精神に異狀を來東北產業博覽會に出席滯滿し十一年二月十六日の大洪水で溺死した風說あり今日に至るもその死生も分明せぬと云ふにある

●…國士館生挑戰　東京國士館劍道部生大谷、吉田、水野三君は昨二十九日來平午前磐中、午後平署と練習試合をなし今三十日郡山に向つた

經國聯盟講演會場變更
盟弊城支部主催在鄕軍人會平分會後援の日本經國聯盟總裁一昧實孝公爵、並に元獨逸駐剳全權大使本多熊太郎、經國聯盟理事長瓜生喜三郎三氏の講演會は今三十廿午後七時から署會議室で催す筈だつたが都合で第三小學校講堂に變更された

●…四倉兒童奉仕　四倉小學校兒童は昨二十九日午前五時より各道路海岸一帶の美化作業を行つた

●…本田氏歸着　四倉町本町本田氏歸着、四倉町本町昆布製造業本田辰吉氏は去月九日から大洗市で開催の日本產業博覽會に出席滯滿し十一年二月十六日の大洪水で溺死した風說あり今日に至るもその死生も分明せぬと云ふにある

●…國士館生挑戰　東京國士館劍道部生大谷、吉田、水野三君は昨二十九日來平午前磐中、午後平署と練習試合をなし今三十日郡山に向つた

經國聯盟講演會場變更
盟弊城支部主催在鄕軍人會平分會後援の日本經國聯盟總裁一昧實孝公爵、並に元獨逸駐剳全權大使本多熊太郎、經國聯盟理事長瓜生喜三郎三氏の講演會は今三十廿午後七時から署會議室で催す筈だつたが都合で第三小學校講堂に變更された

●…四倉兒童奉仕　四倉小學校兒童は昨二十九日午前五時より各道路海岸一帶の美化作業を行つた

●…本田氏歸着　四倉町本町本田氏歸着、四倉町本町昆布製造業本田辰吉氏は去月九日から大洗市で開催の日本產業博覽會に出席滯滿し十一年二月十六日の大洪水で溺死した風說あり今日に至るもその死生も分明せぬと云ふにある

●…國士館生挑戰　東京國士館劍道部生大谷、吉田、水野三君は昨二十九日來平午前磐中、午後平署と練習試合をなし今三十日郡山に向つた

經國聯盟講演會場變更
盟弊城支部主催在鄕軍人會平分會後援の日本經國聯盟總裁一昧實孝公爵、並に元獨逸駐剳全權大使本多熊太郎、經國聯盟理事長瓜生喜三郎三氏の講演會は今三十廿午後七時から署會議室で催す筈だつたが都合で第三小學校講堂に變更された

●…四倉兒童奉仕　四倉小學校兒童は昨二十九日午前五

伊東國際
レヴュー團

來月一日
聚樂館
にて開演

謹告

小生儀昭和七年卷日本國民同盟の組織せらるや推されて同會長の任に就き、續いて黨議に基づき同會機關紙全日本國民同盟新聞發刊の計企あり翌春創刊の運に至り同志等各位より厚告の募集等致し居り候處突然余の滿洲行となり二、三ケ月にして歸鄕致す可きの處藩、鮮、臺及北九州等巡歷し愚はず延引致し候、此間黨員として同志等の行爲に對し聊か余の意に副はぬ點有之、今般同會長の任を辭し運て余の責任にある同新聞關係を玆に清算致し度く、就ては何人が廣告申込、出金致され候共會計に雜然として一切知るよしなく、然し余の責任ざして一切の結末致し度く出金廣告御申込の方は至急左記へ御一報賜り度く延引ながら御返金申上候、追て各位に對し御迷惑相掛け候段深く陳謝致し候と共に此段謹告仕り候

昭和九年七月

平町一ノ二鈴木サキ方
伊東一

各位

發行所　東京市本郷區湯島四丁目五番地
產業組合時報社本部　振替口座　東京一六三八番

▲一白の人　榮譽を得利益共に揚る幸運日進んで功あり▲二黑の人失窓の憂より得意の境に入らんとする吉日▲三碧の人　貿業を旨とし內を守るに吉外に在ては不利▲四綠の人　拾つた神あれば助くる神あり落膽せず勵め▲五黃の人　進退何れにても宜しき吉▲六白の人　計畫は堅ひたりとも猶財力の足らざる如し▲七赤の人　內外共に無事にして目上との親和亦深き日▲八白の人　萬事調子好く進展する日▲九紫の人　進まんより退き守るに旨とすべし病注意

新六　月卯　七日
先勝　三月
二十　六日
尼崎　一日

日出　四、四七　月出後　九、二九
日沒　六、四七　月沒前　九、五八
滿潮　前八、二〇　千潮　二、〇〇
　　後八、五五　前後　二、一五